
遊戯王レジェンド・オブ・デュエリスト

さかもっさん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王レジエンド・オブ・デュエリスト

【Nコード】

N4911I

【作者名】

さかもつさん

【あらすじ】

これは、デュエルキングを目指す、ある一人の少年とその仲間の物語である

その少年の名は『一条彰』

デュエルが盛んな町に住む、デュエルが大好きなごく普通の中学生である

そんな彼だが、ある日偶然、「伝説のレアカード」を手に入れる

「伝説のレアカード」には言い伝えがあり

『伝説のレアカードを全て手に入れた者はデュエルキングの称号を

手に入れる事が出来る』

というものだった

それを知った一条彰は、

伝説のレアカードを全て手に入れる事を決意する

だがそれは同時に、ある闇組織を動かしてしまう事を意味した

果たして、一条彰は伝説のレアカードを手に入れ、デュエルキングになる事が出来るのだろうか？

第一話『一条彰』（前書き）

あらすじはあんな感じですが、
話の序盤は普通の日常の風景等にし、
中盤当たりからあらすじ通りに通して行くので、よろしく願います

第一話『一条彰』

ある晴れた日、オレはあるカードショップへと来ていた。

「ブラック・マジシャンでトドメだ！」

オレの名は『一条彰』。遊戯王が大好きな中学生だ。

「???」また負けた……………おい、彰、もう少し手加減してくれよ！」

彰「はあ？何言ってるんだ？デュエルに手加減もクソもあるかよ。オレはいつだって手は抜かないぜ」

「???」「だけどよお……………フリーデュエルの時くらいは手加減してくれって。じゃねーとお前には勝てないんだよ」

彰「それはお前が弱すぎるからだろうが」

「???」「……………まあそれは否定しない……………」

このさつきから文句ばかり言ってる奴は『高城勇樹』。オレの昔からの親友だ。

デュエル暦はオレとさほど変わらないのに、プレイングが甘いせいとか、ドロ―運がないせいとか、理由が謎で、オレに勝った事が数えられるくらいしかない。

彰「だいたい、なんでそんなに勝てないんだ？」

勇樹「知らん。こつちが聞きたいくらいだ。」

彰「じゃあ、とりあえず一回お前のデッキを見せてみる」

勇樹「ああ、いいぜ。」

そついつて勇樹はオレにデッキを渡す。

そしてオレが見た物は……………

E・HEROフェザーマン×3

E・HEROバーストレディ×3

E・HEROクレイマン×3

E・HEROスパークマン×2

E・HEROバブルマン×2

E・HEROワイルドマン

E・HEROエッジマン

融合×3

融合賢者×2

バブルシャッフル

バブルイリュージョン×2

ワイルドブーメラン

フェザーショット×3

バブルショット×2

死者蘇生

強欲な壺

O・オーバーソウル×2

バーストリターン×2

ミラクルフュージョン

攻撃の無力化

ドレインシールド

エッジハンマー

クレイチャージ

E・HEROフレイムウイングマン×3

E・HEROセイラーマン

E・HEROエリクシーラー×3

E・HEROサンダー・ジャイアント×2
E・HEROランパート・ガンナー×2

彰「……………」

なんだこのデッキ……………」

あきらか小学生デッキじゃねえか……………」

彰「やっとわかったよ。お前が勝てない理由が。」

勇樹「本当か？原因はなんなんだ？」

彰「……………」デッキが弱い。」

勇樹「……………」

彰「このデッキで勝てるほうがおかしいぞ。よくこんなデッキでデュエルする気になるな。」

勇樹「じゃあ、どうすればいいんだよ？」

彰「簡単だろ。カードを買えばいいんだよ。ちょうどここはカードショップだし。」

勇樹「そうか！じゃあ早速買ってくるぜ！」

勇樹は勢いよくカウンターへ走っていった

数分後……………」

勇樹「……………」E・HEROのパックってどれ？」

彰「……………」

やれやれ……………」勇樹が強くなるのはまだまだ先だな……………」

つつく

第一話『一条彰』（後書き）

いかがでしたか？

至らない点はいくつかございますが、
気にしないでいただけると幸いです。

第二話『幼馴染みの決闘者』（前書き）

前回からかなり開いてしまいましたが、
ようやく書けました

ですが、今回もデュエルしてません（汗

第二話『幼馴染みの決闘者』

（キンコンカンコン）

授業の終わりを告げるチャイムが鳴り響く

彰「くーっ、やっと授業終わったぜー」

勇樹「何言ってるんだよ、お前ほとんど寝てたじゃないか。そんなんで高校大丈夫なのか？」

そう、オレはいつも授業中は寝て過ごしているのだ
もちろん、家でも勉強はしていない

彰「五月蠅いな、これから頑張ればいいんだよ。それより勇樹、今日もまたカードショップに行こうぜ！」

勇樹「全く、こいつは……まあいいぜ、行か。」

彰「そうだ、今日は久しぶりに彩佳も誘って行こうぜ！」

彩佳「つてのはオレ達の幼馴染みの女の子だ

本名は『柊彩佳』と言う

デュエル歴はオレ達とそう変わらず、昔からやっている

実は勇樹は彩佳とのデュエルで勝った事がない

もしかしたら、実力はオレより強いかもしれないくらいだ

勇樹「彩佳か、あいつ最近生徒会が忙しいらしいからな……これるかねえ」

そう、彩佳は生徒会に所属しているのだ
だから最近は全くデュエルをしていない

彰「とりあえず誘ってみようぜ、おっ、噂をすれば……………おい、彩佳ア！」

彩佳「あっ、彰、それに勇樹も、どうしたの？」

彰「お前最近生徒会が忙しいらしいじゃん、今日ぐらい、久しぶりにデュエルしにカードショップ行かないか？」

彩佳「デュエル？そうだね、今日は生徒会の仕事はないし、久しぶりに行こうかな」

勇樹「今日は生徒会の仕事はないのか」

彩佳「うん、仕事がとりあえず一息ついたからね、今週は生徒会は休みだよ」

勇樹「へえ、そうなのか」

彰「よし、とりあえずカードショップに行こうぜ！」

そしてオレ達はカードショップへと向かった

彩佳「わあ、ここに来るのも久しぶりだなあ、カードとか増えてるかなあ」

彩佳は小動物のようにちょこちょここと周りを見回している

彰「とりあえず、ショーケースとか、見てきたら？」

彩佳「あ、うん、じゃあ見てくるね」

彩佳はトテトテとショーケースへ向かった

勇樹「よし、彰！早速デュエルだ！今日こそ負けねえぞ！」

彰「おっ、かかってこい！」

結果は分かっているので決闘シーンはとばします

数分後……………

彰「これでトドメだ！」

勇樹：LP0

勇樹「また負けた……………」

彰「お前なあ……………カード買ってデッキ強化しろ……………」

勇樹「……………だからどれ買えばいいかわからないんだって……………」

前回、勇樹は買うパックがわからずデッキ強化が出来なかったのだ

彰「そもそもなんで買うパックがわからないんだ？デッキ作る時にパック買うだろ？それなのになんで」

勇樹「全部、お前と彩佳に貰ったカードだからだよ、パックなんて買った事ないぞ」

……………思い出した、昔、勇樹がデュエルをやりたいって言うから適当にカードをあげたんだ

その時に勇樹がHEROを選んだのか

彰「仕方がないな、教えてやるからちよつとこい」

オレ達はレジカウンターに向かった

彰「HEROパックは……………これと、これと、これだな、とりあえずそれぞれ買ってデッキを強化しとけ」

勇樹「おお、これだな！サンキュー」

勇樹がバックを買う間、席に戻ると彩佳がショーケースから戻っていた

彰「おう彩佳、どうだった？ショーケースの中、なんかあったか？」

彩佳「うーん、別に欲しいカードはなかったかなあ、それより彰、デュエルしない？」

彰「おう！いいぜ！やるか！」

久しぶりの彩佳とのデュエルだ

ちなみに彩佳のデッキは植物デッキだ、久しぶりにやるからなあ、強くなってるだろうか？楽しみだ

つづく

第二話『幼馴染みの決闘者』（後書き）

前書きにも書いたように、今回もデュエルしてませんでした（汗
デュエル内容が思い付かず、書けませんでした（泣）
次回こそはデュエルシーンを付けようと思いますので、応援よろで
す

第三話『魔法使いデッキVS植物族デッキ』（前書き）

初めてデュエルシーンを書かせて戴きました

禁止カード等の制限は軽くする予定なので、死者蘇生や強欲な壺等を使用する時があります

そのような事が不快に感じる方はここで戻る事を推薦します

第三話『魔法使いデッキVS植物族デッキ』

決闘！

彰LP8000 彩佳LP8000

彩佳「カードやるのも久しぶりだなあ……私のターン、ドロー、モンスターをセット、カードを二枚伏せ、ターンエンドだよ」

彩佳：手札3

彰「オレのターン！ドロー！オレは手札から魔導戦士ブレイカーを召喚！」

ブレイカー↓フィールド

彰「自身の効果により魔力カウンターが一つ乗る、さらに魔力カウンターが乗った事により、ブレイカーの攻撃力が300ポイントアップする」

ブレイカーATK1600↓1900

彰「そしてそのカウンターを取り除いて相手の伏せカードを一枚破壊する！」

ブレイカーATK1900↓1600

ポリノシス（伏せ）↓破壊

彰「ブレイカーで伏せモンスターに攻撃！」

ダンディライオン↓破壊

彩佳「やるね、彰、でも破壊されたダンディライオンの効果で綿毛トークンが二体特殊召喚されるよ」

綿毛トークン二体↓フィールド

彰「おつ、彩佳もやるな！カードを一枚伏せてターンエンドだぜ」

彰：手札4

彩佳「私のターン、ドロー、綿毛トークン一体をリリースして、ギガプラントをアドバンス召喚するよ」

ギガプラント↓フィールド

彩佳「さらにスーパルヴィスをギガプラントに装備、これでギガプラントは再度召喚した状態になるよ」

スーパルヴィス↓装備：ギガプラント

彩佳「そして、ギガプラントの効果で手札から椿姫ティタニアルを特殊召喚するよ」

椿姫ティタニアル↓フィールド

彰「早い…………… たった二ターンでティタニアルを出してくるとは…………… さすが彩佳、腕は鈍っていないようだな」

彩佳「エヘヘ…………… なんかそうやって褒められるとなんか恥ずかし

いな……」

彩佳は褒められた事が嬉しいのか、少し照れている

彰「まあ、いいからデュエルを進めようぜ」

彩佳「あつ、うん、それじゃ、ギガプラントでブレイカーに攻撃するよ」

彰「甘いぜ、伏せていた速攻魔法、ディメンション・マジックを発動！ブレイカーをリリースし、手札からブラック・マジシャンを特殊召喚！こい、マイ・フェイバリットカード！」

ブレイカー↓墓地

ブラック・マジシャン↓フィールド

彰「さらにディメンションマジックのもう一つの効果、相手フィールド上のモンスター一体を破壊する！ティタニアルを破壊！」

ティタニアル↓墓地

彩佳「あつ……ティタニアルが……」

彰「さらにギガプラントの攻撃は続くぜ」

ギガプラント↓破壊

彩佳LP7900

彩佳「ギガプラントまで……流石だね、彰」

彰「おう！何たって、オレはデュエルキングになる男だからな！」

彩佳「これでターンを終了するね」

彩佳：手札1

彰：手札3

彰「オレのターン！ドロー！オレは熟練の白魔導師を召喚」

熟練の白魔導師↓フィールド

彰「さらに手札から魔力掌握を発動、白魔導師に魔力カウンターを一つ乗せる」

熟練の白魔導師↓魔力カウンター：1

彰「さらに魔力掌握を一枚手札に加えるぜ」

魔力掌握：デッキ↓手札

彰「さらに熟練の白魔導師自身の効果で魔力カウンターを一つ乗せる」

熟練の白魔導師↓魔力カウンター：2

彰「熟練で綿毛トークンを攻撃！」

彩佳「残念だけど、畏カード、棘の壁を発動するよ」

ブラック・マジシャン↓破壊

熟練の白魔導師↓破壊

彰「くっ……ブラックマジシャン……、カードを一枚伏せて、ターンエンドだぜ」

彰：手札2

彩佳「私のターン、ドロー、手札から増草剤を発動、墓地からギガプラントを特殊召喚するよ」

ギガプラント↓フィールド

彩佳「ギガプラントでプレイヤーにダイレクトアタック」

彰LP5600

彰「くッ……やるな………」

彩佳「クス、カードを一枚伏せてターンを終了するよ」

彩佳：手札0

彰「オレのターン、ドロー、モンスターをセット、ターンエンド」

彰：手札2

彩佳「私のターン、ドロー、ギガプラントを再度召喚するよ」

ギガプラント↓再度召喚

彩佳「ギガプラントの効果で墓地の椿姫ティタニアルを特殊召喚」

ティタニアル↓フィールド

彩佳「椿姫ティタニアルで伏せモンスターに攻撃するよ」

見習い魔術師↓破壊

彰「見習い魔術師の効果、デッキから別の見習い魔術師をセットするぜ」

彩佳「ギガプラントでセットされた見習い魔術師に攻撃」

見習い魔術師↓破壊

彰「さらに見習い魔術師の効果により、執念深き老魔術師をセット」

執念深き老魔術師↓セット

彩佳「なかなか攻撃が届かないなあ、流石だね」これでターン終了だよ」

彩佳：手札1

彰「オレのターン、ドロー、執念深き老魔術師をリバーズ、椿姫ティタニアルを破壊する！」

彩佳「ならティタニアルの効果で綿毛トークンをリリース、老魔術師の効果が無効にして破壊するよ」

執念深き老魔術師↓破壊

彰「くッ……………熟練の黒魔導師を召喚」

熟練の黒魔術師↓フィールド

彰「さらに伏せていたディメンションマジックを発動、熟練の黒魔術師をリリース、手札から神聖魔導王エンディミオンを特殊召喚！」

熟練の黒魔術師↓墓地

神聖魔導王エンディミオン↓フィールド

彰「さらにディメンションマジックの効果により、ティタニアルを破壊する！」

ティタニアル↓破壊

彩佳「あつ……………また……………」

彰「そして、エンディミオンの効果発動、手札の魔法カードを一枚捨て、その伏せカードを破壊する！」

棘の壁↓破壊

彰「そして、エンディミオンでギガプラントに攻撃！」

ギガプラント↓破壊

増草剤↓破壊

彩佳LP7600

彩佳「ああつ、私のモンスター達が全滅しちゃった……………」

彰「これでターンエンドだ」

彰：手札0

彩佳「私のターン、ドロー、夜薔薇の騎士を召喚」

夜薔薇の騎士↓フィールド

彩佳「さらに夜薔薇の騎士の効果で手札からギガントセファロタス

を特殊召喚するよ」

ギガントセファロタス↓フィールド

彰「レベル3チューナーとレベル4モンスター……………っ!?まさか!？」

シンクロ召喚か!?

そして、レベル7で植物のシンクロモンスターといえば……………

彩佳「エヘヘ、そのまさかだよ、彰」レベル4、ギガントセファロタスに、レベル3、夜薔薇の騎士をチューニング、シンクロ召喚、だよ」

ギガントセファロタス↓墓地

夜薔薇の騎士↓墓地

彩佳「ブラックローズドラゴンをシンクロ召喚」

ブラックローズドラゴン↓フィールド

彰「ついに出てきたか……………ブラックローズ……………久しぶりに見たぜ」

彩佳「アハハ、そうだね、私も久しぶりに出したよ、なんか懐かしいなあ」

彰「そうだな、ところで、ブラックローズの効果は発動するのか?しないのか?」

彩佳「あ、えっと、効果発動するよ、フィールド上のカードを全て破壊するよ」

エンディミオン↓破壊

ブラックローズドラゴン↓破壊

彰「くッ…………エンディミオンが…………」

彩佳「これでターンエンドだよ」

彩佳：手札0

彰「オレのターン、ドロー！…………強欲な壺を発動！カードを二枚、ドローする」

彰：手札2

彰「来たぜ！手札から魔法カード、名推理を発動！彩佳、レベルを宣言してくれ」

彩佳「ええと…………ブラックマジシャン来たら困るからなあ…………じやあ？で」

彰「？だな、…………残念だが、引いたモンスターはブラックマジシャンガールだ」

ブラックマジシャンガール↓フィールド

彩佳「ああっ、惜しかったなあ」

彰「ブラックマジシャンガールは墓地のブラックマジシャン一体につき、攻撃力が300ポイントアップする」

ブラックマジシャンガールATK2000↓2300

彰「さらに手札からこのカードを発動するぜ、賢者の宝石！デッキからブラックマジシャンを特殊召喚！」

ブラックマジシャン↓フィールド

彩佳「ここで二体の上級モンスターを出してくるなんて……………」

彰「へへん、さらにブラックマジシャンでダイレクトアタック！」

彩佳LP5100

彩佳「くう……………」

彰「ブラックマジシヤンガールで追撃！」

彩佳LP2800

彩佳「ああつ……………」

彰「カードを一枚伏せてターンエンドだ」

彰：手札0

彩佳「わ、私のターン、ドロー、ええと……………カードを一枚伏せてターン終了だよ」

彩佳：手札0

彰「オレのターン、ドロー、ふっ、悪いがこのデュエルはオレの勝ちだ」

彩佳「えっ？」

彰「ブラックマジシャン、ブラックマジシヤンガールの二体をリリースし、手札から黒の魔法神官を特殊召喚！」

黒の魔法神官↓フィールド

彰「こいつは罠カードの発動を無効にし、破壊する効果がある、その伏せてあるカードは発動しても無駄だぜ」

彩佳「そんなあ」

彰「いくぜ！黒の魔法神官で、プレイヤーにダイレクトアタック！

『セレスチュアル・ブラック・バーニング』！」

彩佳LP0

彰「オレの勝ちだぜ、彩佳」

彩佳「エヘヘ、負けちゃったあゝやっぱり彰は強いね」

彰「いやー、でも今回はちよつとヤバかったかな、もう少しで負けたし、最後の伏せてあったカード、ミラーフォースだっただろ？」

彩佳「アハハ、バレてたんだ、でもあそこで黒の魔法神官が出てこなければ勝てる可能性はあったんだけどなあゝ、またやろうね、彰」

彰「おう、次も負けないぜ！」

彩佳「ふふつ、私も負けないよ」

勇樹「おーい、買ってきたぞー」

レジカウンターのほうから勇樹が戻ってきた

彩佳「あつ、勇樹、お帰り」

彰「なんだ？ずいぶん遅かったなあ、何してたんだ？」

勇樹「いやー、なんか前の奴がさあ、店長にめちゃくちや文句言つててよー、二人を宥めるのに時間掛かつちゃってさ、でも御礼に店長が少し安くしてくれたぜ、ラッキー」

そう、この店長はいい人で、たまに常連客の買うカードを安くしてくれる事があるのだ

……ホントにたまにだけどな

彰「それよりさ、早く開けようぜ！」

彩佳「あつ、私も早くみた〜い」

勇樹「よし、開けるぜ……………お？これは……………エアーマン？」

そつ、ヒーローデッキに欠かせない、あのエアーマンだ

彰「おつ、エアーマンなんてついてるな、よかったじゃないか、これでヒーローデッキ強化に一步近付いたな」

彩佳「よかったね〜勇樹♪」

勇樹「よし、早速デッキにいれるぜ！と、そのまえに、他のパツクも開けるとするか」

……………

彰「……………うーん、エアーマン以外はこれと言っていいカードはないな」

勇樹「そうか……………まあエアーマンが出ただけラッキーだな、よし、出来た！彰、試しデュエルだ！」

彰「いいぜ、こい！」

……………数分後……………

勇樹L P O

勇樹「また負けた……………orz」

彰「弱すぎ……………」

彩佳「アハハ……………」

……勇樹はやっぱりデジキじゃなくてプレイングが悪いんじゃないかな
かるつか……

つづく

第三話『魔法使いデッキVS植物族デッキ』（後書き）

自分的にはかなり長く書いたほうで、誤字、脱字等、こうしたほうがいい、と言う意見等がありましたら、感想を書いて頂けると幸いです

次回はクラスメートのデュエリストを出す予定です

第四話『ドラゴン使いのクラスメート』（前書き）

今回から少しばかりオリカを登場させます

第四話『ドラゴン使いのクラスメート』

『カランコロン』（ドアの鈴の音）』

今日は………というか今日もまた、
カードショップに来ていた

彰「しかし、いつ来ても空いてるよな、この店」

勇樹「そうだな。まあ俺としては空いてるほうが気楽でいいけどな」
彩佳「そうだね、混んでると逆にテーブルが使えなかったりして大
変だもんね」

彰「だだでさえ狭い店内なのにな」

そう言つてテーブルに着いた

勇樹「よし、早速デュエルしようぜ、彰」

彰「まあ待て、それよりもお前はデッキを強くするのが先だ」

勇樹「なんだよ、俺はこのままでも充分だつて」

そういつていつも負けてるんだよな、こいつは………

彰「とにかく、さつさとデッキを強化する！ホラ、このカード貸し
てやるから」

そう言つて、オレはカバンからカードの束の入ったケースを取り出
した

勇樹「わかったよ。ったく、自分のデッキくらい自分の自由にさせ
るつての……覚えてるよ、今に強くなって、見返してやるからな」

彰「おう、そのいきだ。頑張れよ」

そう言っただけはショーケースに向かった

彰「さて、どれにしようかなって……」

「……すみません、このカードとこのカード……あと、このカードも下さい」

彰「……ん？どこかで聞いたような声だな……」

と、気になって声のしたほうを振り向くと

彰「あれ？龍弥？」

龍弥「……彰か？……どうかしたか？」

彰「いや……なんでお前がこんなところにいるのかなって」

龍弥「俺はただカードを買いに来ただけだ……別に不思議な事でもないだろう」

こいつは『神谷 龍弥』

オレのクラスメートの一人だ

ちなみに学力は学年トップの優等生である

まさかこいつカードをやっているとは驚きだ

彰「まあいいや、お前もデュエルしに来たんだろ、オレとやろうぜ！」

龍弥「別に構わないが……あいつらはどうするんだ？」

龍弥は彩佳と勇樹のいるテーブルを指差した

彰「ほつとけば大丈夫だろ、その内終わるし」

龍弥「そうか……ならいいが……」

彰「それより、デュエルだ！デュエル！」

龍弥「わかった、それじゃあ……」

決闘！

彰LP8000VS龍弥LP8000

彰「先攻はもらうぜ、ドロー！オレは手札から、チューンド・マジシャンを召喚！」

チューンド・マジシャンATK1800

「カードを一枚伏せ、ターンエンド」

龍弥「俺のターン、俺は手札から永続魔法、未来融合・フューチャ・フュージョンを発動」

彰「なっ！いきなりかよ……」

龍弥「デッキから真紅眼の黒竜二体、青眼の白龍三体を墓地へ送り、F・G・Dを選択」

青眼の白龍×3：デッキ↓墓地

真紅眼の黒竜×2：デッキ↓墓地

彰「F・G・Dか……まずいな……」

龍弥「さらに俺は手札からアックスドラゴニートを召喚」

アックスドラゴニートATK2000

龍弥「アックスドラゴニユートでチューンドマジシャンを攻撃」

チューンドマジシャン↓墓地

彰LP7800

彰「くっ……罨発動！魔法使いの落とし物！」

魔法使いの落とし物
オリジナル

罨カード

自分フィールド上の魔法使い族モンスターが破壊され、墓地に送られた時に発動することができる。その魔法使い族モンスターのレベルの半分のレベルの魔法使い族モンスター一体をデッキから特殊召喚する。

彰「この効果でデッキからマジカルフィシアリストを守備表示で特殊召喚するぜ」

マジカルフィシアリストDEF400

龍弥「アックスドラゴニユートは攻撃後守備表示となる」

アックスドラゴニユートDEF1200

龍弥「……カードを一枚伏せ、ターンエンドだ」

彰「オレのターン、オレは手札を一枚捨て、THEトリッキーを特殊召喚」

THEトリッキーATK2000

彰「いくぜ！レベル5、THEトリッキーに、レベル2、マジカル

ファイアリストをチューニング！……シンクロ召喚！いでよアーカナイトマジシャン！」

アーカナイトマジシャンDEF1800

彰「アーカナイトマジシャンの効果により、自身に魔力カウンターを二つ乗せる」

アーカナイトマジシャン：魔力カウンター：2

彰「さらに魔力カウンターを一つ取り除き、その伏せカードを破壊するぜ」

龍弥「チェーンだ、畏カード、魔龍の咆哮を発動」

魔龍の咆哮^{オリジナル}

カウンター畏カード

フィールド上のカードを破壊するモンスター効果が発動した時に発動可能。自分フィールド上の閻属性・ドラゴン族モンスター一体をリリースする事で、その効果を無効にし、そのモンスターを破壊する。

アックスドラゴニウト↓墓地

アーカナイトマジシャン↓墓地

彰「何！？くっ、モンスターをセット、カードを一枚伏せてターンエンドだ」

龍弥「俺のターン、未来融合のターンカウンターが一つ進む」

未来融合・フューチャーフュージョン：1ターン

龍弥「手札から魔法カード、竜の導きを発動」

竜神の導き（オリジナル）

魔法カード

デッキからレベル5以下のドラゴン族モンスター1体を手札に加える。

龍弥「デッキからランサードラゴニウトを手札に加える」

ランサードラゴニウト↓手札

龍弥「ランサードラゴニウトを召喚、伏せモンスターに攻撃」

見習い魔術師↓墓地

彰LP7100

彰「ダメージは受けたが、見習い魔術師の効果発動、オレは執念深き老魔術師をセット」

執念深き老魔術師↓伏せ

龍弥「これでターンエンドだ」

彰「オレのターン、執念深き老魔術師を反転召喚、リバーズ効果によりランサードラゴニウトを破壊するぜ！」

ランサードラゴニウト↓墓地

彰「さらに手札から魔法カード、ディメンションマジックを発動！執念深き老魔術師をコストに手札からブラックマジシャンを特殊召

喚！」

執念深き老魔術師↓墓地

龍弥「それがお前の切り札か……」

彰「そうだぜ、オレのフェイバリットカードだ！さらに手札から魔法カード、黒・魔・導ブラック・マジックを発動！相手フィールド上の魔法・罠カードを全て破壊する！」

龍弥「甘い、手札のマジック・ドラゴンの効果を発動」

マジック・ドラゴン（オリジナル）

闇 星2 ドラゴン族・効果 ATK200 DEF300

相手が魔法カードを発動した時、このカードを手札から捨てて発動。その魔法カードの効果を無効にし、相手はカードを一枚ドロウする。

龍弥「このカードを手札から捨て、黒・魔・導の発動を無効にする。さらに相手はカードを一枚ドロウする」

彰「くっ、手札から無効にされるとはな、だがお前のフィールドがから空きなのは変わりないぜ！ブラックマジシャンでダイレクトアタック！」

龍弥LP5500

彰「よし、やっとダメージを与えたぜ！カードを一枚伏せてターンエンドだ！」

龍弥「俺のターン、このターン、未来融合の効果により、F・G・Dを融合召喚！」

F・G・DATK5000

彰「いよいよお出ましかよ……………」

龍弥「……………このターンで終わらせるぞ、俺は手札から、魔法カード、龍の鏡を発動、墓地の青眼の白龍三体を融合、いでよ、青眼の究極龍」

青眼の白龍×3 ↓除外

青眼の究極龍 ATK 4500

彰「くつ、究極龍まで出てきやがったか……………」

龍弥「さらに魔法カード、スタンピングクラッシュを発動、その伏せカードを破壊し、500ポイントのダメージを与える」

ドレインシールド ↓墓地

彰 LP 6600

彰「まずい……………!」

龍弥「F・G・Dで、ブラックマジシャンを攻撃」

ブラックマジシャン ↓破壊

彰 LP 4100

龍弥「青眼の究極龍でトドメだ」

彰 LP 0

彰「……………負けちゃったか、だけど、楽しいデュエルだったぜ、龍弥」

龍弥「ああ、俺も楽しかったぜ」

彰「またやろうな!」

龍弥「おう、それじゃあな」

そう言つて龍弥は帰つていった

彰「さて、あいつらのところに戻るか…」

………

彩佳「あつ、おかえり、彰。遅かつたね」

彰「いやあ、さっき龍弥がいたもんでさ、ちよつとデュエルしてたんだよ」

彩佳「えっ？神谷君がいたの？」

彰「ああ、あいつがデュエルやつてたのは驚いたけど、まさかあんなに強いとはなあ………」

流石秀才、

……… って関係ないか

彩佳「………もしかして、負けちゃったの？」

彰「………ああ、負けちゃったよ」

彩佳「でも、そういう事もあるよね。頑張つて次に勝てばいいよ」
彰「それもそうだな……… って、勇樹はまだ終わらないのか？」

オレは未だにカードと格闘してる勇樹を指差して言った

彩佳「あはは………そうみたい」

彰「全く………少し知恵を貸してやるか」

そして、勇樹がデッキを組み終えたのは日も落ちた頃だった………

第五話『黒い影』（前書き）

今回から新章突入、
というか、今回からあらすじにそって書いていきます

第五話『黒い影』

今日も一日の授業が終わり、
放課後、カードショップへ来ていた

彰（なんだかんだで毎日カードショップに来ているような……………）

彩佳「ティタニアルで攻撃」

勇樹「うわああ」

勇樹LP0

勇樹「また負けた……………orz」

勇樹はまた負けたようだ
いつになったら強くなるやら…

彰「お前、ホントに成長しないな、もうすぐ大会あるってのにどうすんだ？」

勇樹「そんなくらいわかってらあ、俺だって強くなりてえよ、でも全然勝てないんだよ」

彩佳「でも勇樹だって少しずつ強くなってきたよ、だって今だって少しずつ押してたもん、もう少し頑張れば強くなるはずだよ」
勇樹「そうだ！もうちょっとなんだ！よし、そうとなりや、またカード買っぞー！」

勇樹はそう言いながらカウンターへと走っていった

彰「いや…………パック買えばいいってもんでもないだろ…………」

彩佳「あはは……………そういえばさ、最近、デュエルディスクが一般発

売されたりしいね」

彰「デュエルディスクか……あの、バトルシティで配られたんだっけ」

バトルシティ……

それは何年も前の事になるが、デュエルキングを決める大会が開かれたそうだ

優勝者は誰だか知らないが、とにかく凄い大会だったそうだ

彩佳「でもそれ以来、デュエルディスクは市販されてなくて、ついに最近やっと発売されたりしいよ」

彰「まじ？今ここに売ってるかな？」

彩佳「うん、まだあるみたいだよ、実は私はもう買ってるんだ」
彰「そうなのか？いつの間に……よし、オレも買ってくる！」

カウンターの前に群がる奴らを蹴散らし、店長に聞いてみると、まだあつたらしい

彰「よっしゃ、ディスクゲットだぜ！」

彩佳「お帰りよよかったね、買えて」

彰「よし、今度からは外でもデュエルが出来るな！」

彩佳「そうだね、あ、デュエルディスクで思い出したけど、最近やたらストリートデュエルを申し込むデュエリストがいるの、知ってる？」

彰「いや、知らないな？」

彩佳「あのね、そのデュエルに負けると、レアカードを一枚盗られちゃうらしいんだ」

彰「ふーん」

彩佳「しかも、いろんなカードショップの大会の上位入賞者がよく狙われてるらしいよ、彰も気をつけてね、彰だって、このショップ

ではいつもベスト4に入ってるんだから」

そう、自慢じゃないがオレはよくこの大会に出ていて、しかもほとんどベスト4入りを果たしている

彰「フツ、なるほどな、だがオレを倒そうなんて十年早いぜ、来たら返り討ちにしてやるってんだ！」

彩佳「ふふっ、彰らしいね」

勇樹「おーい、戻ったぞ」

そうしているうちに、勇樹が帰ってきたあれ？さっき蹴散らした中にいたか？こいつ

彰「よう、なに買ってきたんだ」

勇樹「それがよー、今日は全然パックなくてさ、近くのコンビニまで行ってきたんだよ」

彰「は？コンビニまで行ってきたのか？」

勇樹「ん？ああ、まあそこにもなかったんだけどさ」

……こいつ、やっぱり馬鹿だ……

夜

彰「あー、すっかり遅くなっちゃったよ、やべーな、母さんに叱られるよ」

夜遅く、オレは人通りの少ない道を走り抜けていた

彰「調子にのって、閉店時間まで店にいた奴らどデュエルディスク

でデュエルしてるんじゃないかな……ん？」

道の先に誰かがいる……

「……」

黒づくめの男……？

彰「なんだお前は？急いでるんだ、そこをどいてくれ」
「……」

何も言わずにそいつは腕に装着したデュエルディスクを掲げる

彰「……なんだ？オレにデュエルを挑もうつてのか？」
「……」

そつか「……こいつが彩佳の言っていた……」

彰「よし、上等だ！かかってこい！」

決闘！

彰LP8000VS???LP8000

「……私のターン、モンスターをセット、カードを二枚伏せ、
ターンエンド」

彰「オレのターン！魔導戦士ブレイカーを召喚！ブレイカーの効果
により、ブレイカー自身に魔力カウンターを一つ乗せる、さらにブ
レイカーは自身に乗っているカウンター一個につき、攻撃力が30
0アップする」

ブレイカー：ATK1600↓1900

彰「さらにブレイカーの魔力カウンターを取り除く事で、相手の魔法・罠カードを一枚破壊する！」

伏せ↓墓地

ブレイカー：ATK1900↓1600

彰「ブレイカーで伏せモンスターに攻撃！」

ニードルワーム↓破壊

???「ニードルワームのリバース効果発動、お前のデッキの上から五枚を墓地に送る」

彰：デッキ29枚

彰「くっ……デッキ破壊か……」

???「さらに永続罠カード発動、『地縛霊の怨念』」

地縛霊の怨念
オリジナル

【永続罠カード】

自分フィールド上のモンスターが戦闘によって破壊される度に、破壊されたモンスターのレベル分だけ相手のデッキの上からカードを墓地に送る。

???「ニードルワームが戦闘で破壊された事によりお前のデッキの上からさらに二枚を墓地に送る」

彰：デッキ27枚

彰「さらに手札より、速攻魔法、ディメンション・マジックを発動！ブレイカーをリリースし、手札からコスモクイーンを特殊召喚！」

コスモクイーン：ATK2900

彰「コスモクイーンでダイレクトアタック！」

???LP5100

???「くっ……」

彰「これでターンエンド！」

???「私のターン、モンスターをセット、カードを一枚伏せ、ターンエンド」

彰「オレのターン、モンスターをセット、コスモクイーンで伏せモンスターに攻撃」

ニードルワーム↓破壊

彰：デッキ21枚

???「『地縛霊の怨念』の効果発動、ニードルワームのレベル、二枚のカードをデッキから墓地に送る」

彰：デッキ19枚

彰「まずい、デッキがもう二十枚切った……！く、ターンエンド」
???「私のターン、手札から、永続魔法、『悪霊の復讐』を発動」

オリジナル
悪霊の復讐

【永続魔法】

自分のデッキからカードが墓地に送られる場合、代わりに相手のデ

ツキの上から墓地へ送る。

「???」そして伏せていたカード、針虫の巣窟を発動、悪霊の復讐の効果により、お前のデッキの上から5枚を墓地に送る」

彰「何!?!」

彰：デッキ14枚

「???」モンスターをセット、カードを一枚伏せ、ターンエンド」

彰「くっそ……ドロー! 執念深き老魔術師をリバーズ! その伏せモンスターを破壊するぜ!」

執念深き老魔術師：ATK450

悪魔の偵察者↓破壊

彰「さらに老魔術師をリリース、ブラックマジシャンガールをアドバンス召喚!」

ブラックマジシャンガール：ATK2000

彰「く……運悪くブラックマジシャンは落ちてなかったか……ブラックマジシャンガールでダイレクトアタック!」

「???」LP3100

彰「さらにコスモキーンで追撃!」

「???」LP200

彰「カードを一枚伏せ、ターンエンドだ」

「???」「エンドフェイズに二枚目の針虫の巣窟発動」

彰「な!? まだあったのか!？」

彰：デッキ8枚

彰「とうとうデッキが十枚切ったか……」

「???」「私のターン、悪霊の復讐を墓地に送り、『死霊・デス・スピリット』を守備表示で特殊召喚」

死霊・デス・スピリット（オリジナル）

闇 星5 ATK1800 DEF2200

【悪魔族・効果】

このカードは自分フィールド上の永続魔法カードを墓地に送る事で、手札から特殊召喚する事ができる。このカードが特殊召喚された場合、このカードの守備力以下の攻撃力を持つ、相手フィールド上のモンスター一体を破壊し、破壊したモンスターのレベル分の枚数だけ相手のデッキの上から墓地に送る。自分のエンドフェイズ毎に、相手のデッキの上から一枚を墓地に送る。このカードは戦闘によっては破壊されない。

死霊・デス・スピリット：DEF2200

「???」「この効果により、ブラックマジシャンガールを破壊し、お前のデッキからブラックマジシャンガールのレベル分、六枚を墓地に送る」

ブラックマジシャンガール↓破壊

彰：デッキ2枚

彰「ヤバイな……次のターンで勝負を決めないと負ける……」

「???」エンドフェイス時、デス・スピリットの効果でお前のデッキの上から一枚を墓地へ送る」

彰：デッキ1枚

「???」これでターンエンドだ」

彰「いくぜ、ラストターン、ドロ」

彰：デッキ0枚

彰「いくぜ、コスモクイーンで、死霊・デス・スピリットに攻撃！」

「???」死霊・デス・スピリットは戦闘では破壊されない」

彰「くっ……だが関係ないぜ！オレは手札より、速攻魔法、ディメンションマジックを発動！コスモクイーンをリリースし、いでよ！ブラックマジシャン！」

ブラックマジシャン：ATK2500

彰「さらに、ディメンションマジックの効果により、デス・スピリットを破壊！」

死霊・デス・スピリット↓破壊

「???」なんだと……！？」

彰「終わりだ！ブラックマジシャンでダイレクトアタック！ブラック・マジック！」

「???」ぐああああっ！！」

「???」LP0

「???」「くっ……………私が負けるとは……………」

黒づくめの男は翻を反して去ろうとする

彰「待て！お前は何者なんだ！？」

「???」「我らはアサシン……………レアカードを狩る者……………この借りはいずれ返すぞ……………」

そう言つて、黒づくめの男は消えた

彰「アサシン……………そういえば、やつは『我ら』って……………ん？なんだ？あれは？」

やつがいなくなった後の場所に何かが落ちていた……………

彰「これは……………カード？『伝説の精霊魔術師』……………？って、いけね！早く帰らないと！」

急いでいたオレはそのカードをデッキケースにしまった

このカードがその後、オレ達をある戦いに巻き込む事になるとは、その時のオレは知るよしもなかった……………

番外編『メインキャラクター紹介』（前書き）

少し遅くなりましたが、キャラクター紹介です。

前半の話しを自分で見ても、キャラの立ち方がかなりバラバラになってしまったので、キャラクターの設定をしっかりと立てようと思います。

番外編『メインキャラクター紹介』

いちじょう あきひろ
一条彰

性別：男

年齢：15才

身長：168?くらい

物語の主人公。とある、遊戯王が盛んな町に住む、ごく普通の中学生デュエリスト。ある日、一枚のあるカードを偶然拾った事により、そのカードを巡る闘いに巻き込まれてしまう。デュエル歴は長く、実力もそれ相応のものである。基本的には静かなほうだが、デュエルの事となると、やたらと熱血になる。主に魔法使いデッキを使う。

たかしろ ゆうき
高城勇樹

性別：男

年齢：15才

身長：170?くらい

主人公の親友であり、小学校よりの腐れ縁。デュエル歴は主人公とあまり変わらないが、何故か全くと言っていいほどに勝ったためしがない。テンションはあまり高くないが、天然(?)なのか、少しズレたところがある。主にE・HEROデッキを使う。(後半からデッキを変更するかもしれませんが……by作者)

ひいらぎ あやか
柊彩佳

性別：女

年齢：15才

身長：162?くらい

主人公の幼い頃よりの幼なじみ。髪は少し赤身のかかった、セミロングのポニーテール。昔から主人公といつも一緒にいたため、デュエル歴も長い。デュエルの実力も主人公とほぼ同じくらいである。

（だが、ドロー運が主人公よりもないため、主人公にはあまり勝てていない）おっとりした性格で、常にマイペースである。主に植物族デッキを使う。実は幼なじみである主人公にひそかに好意を抱いている。（ですが、これはデュエル小説なので、恋愛は絡めない方向で……by作者）

かみや りゅうや
神谷龍弥

性別：男

年齢：15才

身長：168?くらい

主人公の通う学校のクラスメート。成績優秀の優等生である。デュエル歴は浅いようだが、持ち前の頭脳でそれをカバーし、主人公に黒星をつけた、相当の実力者。クールな性格で、あまり他人と接しなからず、人込みなどを嫌う。（だが決して他人が嫌いなわけではない）主にドラゴンデッキを使う。

黒づくめの集団

通称『アサシン』。噂のレアカード強奪事件の真犯人。何故レアカードを強奪するのは不明。（これは物語後半で明かす事にします……by作者）全てが謎に包まれ、一切の素性も明かされていない。使用デッキは団員によって異なる。

番外編『メインキャラクター紹介』（後書き）

と、まあ人数は少ないですが、こんな感じです。

次話からはこの設定で行きたいと思います

あと高城勇樹ですが……

後半から、GXで言う三沢（空気男）になるかもしれないです……

……

そういえば、

OCGで禁止制限のリスト出たみたいですな。

今回の改訂でシンクロアンデやライロが弱体化、アンデに至ってはほぼ全滅……

ライロもアンデシンクロも使っていた自分としては少し辛いです……

……

身勝手ながら、禁止制限リストをのせておきます。

参考になってくれれば幸いです。

「新制限カード」：

「カオス・ソーサラー」

「トラゴエディア」

「ネクロ・ガードナー」

「ネクロフェイス」

「馬頭鬼」

「ライトロード・サモナー ルミナス」

「異次元からの埋葬」

「おろかな埋葬」

「光の援軍」

「デステニー・ドロー」

「闇の誘惑」
「マインドクラッシュ」
「マジカル・エクスプロージョン」
「新準制限カード」：
「オネスト」
「サイバー・ドラゴン」
「終焉の王デミス」
「ダンディライオン」
「黄泉ガエル」
「黒い旋風」
「団結の力」
「王宮のお触れ」
「王宮の弾圧」
「スキルドレイン」
「制限解除カード」：
「闇の仮面」
「地砕き」

個人的にはカオスソーサラー、ネクガ、おろ埋等が厳しいですね……
まあサイドラや、ダンディ、黄泉ガエルが緩和されたのは嬉しいですが

後書きが長くなってしまいました
以上、さかもつさんでした。

感想や指摘、アドバイス等ありましたら、カキコミ待ってます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4911i/>

遊戯王レジェンド・オブ・デュエリスト

2010年10月9日12時47分発行